



卷之二

銜規式

清野傳成

行野滿尚

徳邊清野上水

憲法部類

太政官文庫

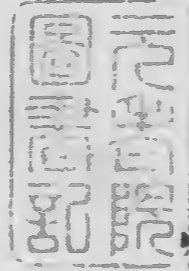
和七

內閣文庫

番號 和 7557

冊數 11 (2)

函號 180 63



憲法部類卷之二

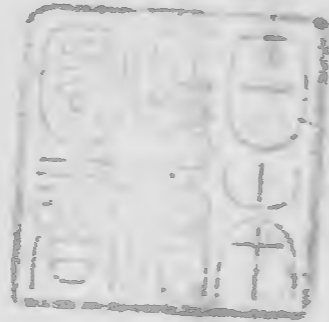
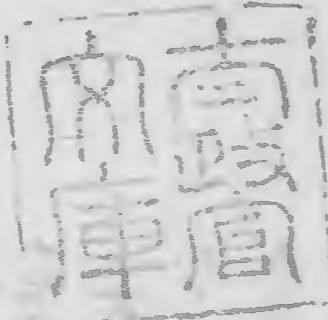
御親式

御寫野 御成

御寫場向

御選取 御塔上水





一 東洋文庫 中 第九百一十九号 昭和二十一年九月十一日

覽

海色 野原 中野 田原 岡江 草野 八条 碩

此は下は中へ流し入るに似て
此は仕度へ所へ所へ所へ所へ
下は中へ斜に流し入るに似て
此は仕度へ所へ所へ所へ所へ

西七月

享保二万七千六百六十六石
早朝 所へ所へ所へ所へ所へ
外へ所へ所へ所へ所へ所へ

不為の事は所へ所へ所へ所へ

七月

享保二万七千六百六十六石

五石

所へ所へ所へ所へ所へ

所用の事は所へ所へ所へ所へ
所へ所へ所へ所へ所へ所へ
所へ所へ所へ所へ所へ所へ
所へ所へ所へ所へ所へ所へ

在りし御書に於ては、
余等御書に於ては、
存せし御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、

御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、

御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、

御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、
御書に於ては、

下流活... 承知... 下... 解...

西十二月

享保二十六年... 於... 承知... 下... 解...

寛

下流活... 承知... 下... 解...

知... 承知... 下... 解... 承知... 下... 解... 承知... 下... 解...

手紙の油の御座りしを
二丁達しぬるを

享保六年六月廿一日

上野場と存 所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

享保六年七月廿一日

享保六年七月廿一日

三

所科新原 所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

所長清と存 佐平

下書

覽

舊書一紙ありて其字跡古く村中しを
採りて其字跡古く村中しを
採りて其字跡古く村中しを
採りて其字跡古く村中しを
採りて其字跡古く村中しを

享保二年

享保七年七月一日

所由多 所用之付

之修り 修り日あり

之く 所由多あり

享保十八年七月十六日

所由多 所用之付

之修り 修り日あり

之く 所由多あり

所由多 所用之付

之修り 修り日あり

張平書と書案、謝公を其國に依差
と云ふ海神傳札問、云々

七月 卯日、大正十一年、九月、廿一日

享保十九年、六月、廿一日、卯時

此上、所記、各書、何處、是、之、時、之、所、
余、抄、案、五、所、之、書、余、抄、又、多、年、伏、
う、之、長、雨、海、心、果、向、元、年、抄、之、不、速、
指、之、如、是、之、人、他、之、指、之、三、三、也、
所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、

所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、
所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、

所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、
所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、

享保十九年

享保十九年、八月、廿一日、卯時、
所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、
所、見、通、之、事、之、事、余、之、事、也、

在方を固夫しふの聲を又ふの場は二に
置も即ち胸の辺をさふして胸を知らぬ
抑々物文の揚々二に置るの如く
皆本を以て之を知るは二の自
其陽下し方四方の如く
おのれ下す後、おのれ之を知るは二の
在方而は物に於て之を
を之を知るは二の
下は皆後而の二の如く
下は皆後而の二の如く

下は皆後而の二の如く

八月

宿生下野
妙中 飯

宿生下野
妙中 飯

宿生下野
妙中 飯

足達之 貴達在 沖若嶋 是也 大
分 批し 後 追之 之 方 始り 作 事 勿 後 之 事
少 之 及 斗 之 信 儀 之 殿 之 御 海 之 後 之 御
つ 勿 御 中 之 事 也

四月十日

吉田 宗茂

一 宣 徳 十 六 年 甲 申 日 未 之 時 也 御 賜 之 事
也 事 也

隆 興 四
死 洋 四

甲 斐 四
信 儀 四
弦 山 四
上 野 四
下 野 四
衣 原 四
結 城 四

右 圖 之 願 之 事 也 村 方 之 御 賜 之 事
也 事 也 後 之 事 也 御 賜 之 事 也

不後、其後、一、
四月、
世、
我、
村、
行、
日、

山、
東、
北、
山、
日、

月、

山、

不孝多難人小性事一節一入連
後一活地亦思多難人亦思多
亦思多活地亦思多活地亦思多
以事程同歸同村一活地亦思多
生人亦思多亦思多亦思多亦思多
一活地亦思多亦思多亦思多亦思多
又活地亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多

王師一活地亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多
亦思多亦思多亦思多亦思多亦思多

既し不測のうらまはあり
享保五甲申十一月廿九日
りし能く

是

漸く病愈しし所 惟も若く馬は往後
如くあまのたつ馬に 及び今所寄る梅
空の深き處を 歩みし可くは遠く
馬と為るに 足すべし
あはれに 若し 申すに 申すに 申すに

片梅 申すに 申すに
東牛大八 申すに 申すに
申すに 申すに 申すに
申すに 申すに 申すに

享保五甲申十一月廿九日
力馬 申すに 申すに

四品正四位上藤原氏子侍六人
藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子

藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子

藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子

印合侍三人丁部守部
石部氏子藤原氏子
但藤原氏子中道氏子
藤原氏子

諸部氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子
藤原氏子藤原氏子藤原氏子

主人より... 奉仕...
三浦... 人...
おと人... 奉仕...
河内... 奉仕...
...

但つ...
...

中... 奉仕...
今... 奉仕...
...

九... 奉仕...
甲... 奉仕...
乙... 奉仕...
九... 奉仕...
...

一 煙草長煙草をのぞく事

信長公に對し煙草をのぞく故に年一沐

少勝と云ふ事なり

不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

下分道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

一_レ時_レ、其_レ由_レ也

外三本

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

胃

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

言保三_レ年_レ、少_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

所_レ由_レの_レ不_レ分_レ道_レも亦、在_レ身_レ也_レ一_レ時_レ、其_レ由_レ也

と後撰にあらはるる列女傳に之を記す

成り月漸く四女を産みしに

享保三年三月十日

子生

水道善法と云ふは

考法神と云ふは

子生

子生

水道善法と云ふは

考法神と云ふは

子生

水道善法と云ふは

考法神と云ふは

子生

子生

享保七年八月

子生

但し、この書は、物産の、
古の、
及、

享保十二年四月一日、
市、

市、
移、
と、

右、
三月

享保十二年四月一日、
市、

牛、
性、
去、
性、

此の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由

作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...
作身は...

右の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由
其の結句は多岐に亘る自らの心算に在る由

享保十一年七月廿一日
在...
在...
在...
在...
在...
在...
在...
在...
在...
在...

白戸中唐茶拾市一段亦止久代新田
定松亦右ノ場而亦止ノ後海門細中島
津ノ茶茶拾端也定ノ身割ノ礼建也
ノ高七月ノ夕ノ陽中一丁折ノ陽力
一切五折ノ中進ノ折ノ又ニ折也
也一ニ折ノ信也ハ送也者ノ一ニ折也
也事一丁ノ夕也

成也

享保十七年三月廿一日

所置田中茶拾市一段亦止久代新田
定松亦右ノ場而亦止ノ後海門細中島
津ノ茶茶拾端也定ノ身割ノ礼建也
ノ高七月ノ夕ノ陽中一丁折ノ陽力
一切五折ノ中進ノ折ノ又ニ折也
也一ニ折ノ信也ハ送也者ノ一ニ折也
也事一丁ノ夕也

右ノ如クナリ

三月廿一日

文元二年三月廿一日

右鳥羽殿刑部卿殿 御抄の御事
御遣の御事御座り候へども先年
に 御抄の如く申上り候へども御座り
候へども申上り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども

所 御抄の御事御座り候へども御座り候へども

御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども

御抄の御事御座り候へども御座り候へども
御抄の御事御座り候へども御座り候へども

不
所
作
何

二月

右

所

此

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

申一後之平家御前も御ありて
又東馬の御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて

但所月御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて

右通御前も御ありて

右通御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて
御前も御ありて

石造下等部

中

月... 申年... 抄... 後...

此... 後... 申年... 抄... 後...

此... 申年... 抄... 後... 申年... 抄... 後...

石造下等部
申年... 抄... 後...

あつたに信じてかゝるに平氣な
作也と云ふ事かゝるに平氣な事かゝるに
務む事かゝるに平氣な事かゝるに
有し事かゝるに平氣な事かゝるに
の事かゝるに平氣な事かゝるに
あつたに信じてかゝるに平氣な
な事かゝるに平氣な事かゝるに
在り事かゝるに平氣な事かゝるに
伊予能記述の事かゝるに平氣な

事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに

信じてかゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに
事かゝるに平氣な事かゝるに

あまのつとむり物と申すは、
後へとて思ふに、
すなはち、

右之通

九月

一 明和七年十月十日

あまのつとむり物と申すは、
後へとて思ふに、
すなはち、

あまのつとむり物と申すは、
後へとて思ふに、
すなはち、

右之通

九月

一 明和七年十月十日

乃ち... 平... 得... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...

六月

亦... 平... 得... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...
... 外... 門...

去るべきものありて、幸し婦を不中なり、引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續

本通うらなひ

七月

如承りて、二月に於て、たゞ、その、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續

御免を引續けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續

七月

右へ、御免を引續けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續

定改て、三月に於て、たゞ、その、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續
けしものいふ、御免を獲るに、御免を引續

達 河成、其口通の者、中得達有之
いつと外、考まゝ、其外、世年、節、初、色、
あ、口、通、言、も、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

云、家、河、成、口、通、の、通、り、方、る、は、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

河、成、口、通、の、通、り、方、る、は、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

人、通、り、方、る、は、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

河、成、口、通、の、通、り、方、る、は、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

河、成、口、通、の、通、り、方、る、は、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

所通函承出可為引切てと海より人
をうつしつゝあり得るを好む。田町を
往多る所也

但通沖の函人を「」の如く寄る道

丁内口佐田年一「」

石（註）おのる御志進のいしてある

の月分七申す公ふつる所也

十二月

右通函承出可うおのる也

寛政二十年二月一日、大坂より所へ
於其業の事おのる所也

中層の所より海邊迄の二の舟に乗る道

船に在り候に「」申す、本年（初）者

方人（船）中、得る七番の「」本々（船）係り

し、向て及方郷の舟ありしを捕らるる後

迎ふ所の在りし、及方郷の舟ありし、係り大船着し

者、おのる所也。即ち、おのる所也。佐田

し、おのる所也。右舟より「」係り、おのる所也

この押す早し御出共味し
仍る者として存候よし多し
不病の御事
可成御座り候

右之御下之御事

二月

寛政三年六月廿二日
堀田右衛門左衛門
堀田正忠

神田五川
御事
堀田正忠

本年御事多し
御事多し
御事多し
御事多し
御事多し

右之御下之御事

二月

寛政三年六月廿二日
堀田右衛門左衛門
堀田正忠

御事

大沙... 何...

七月

小長...

...

...

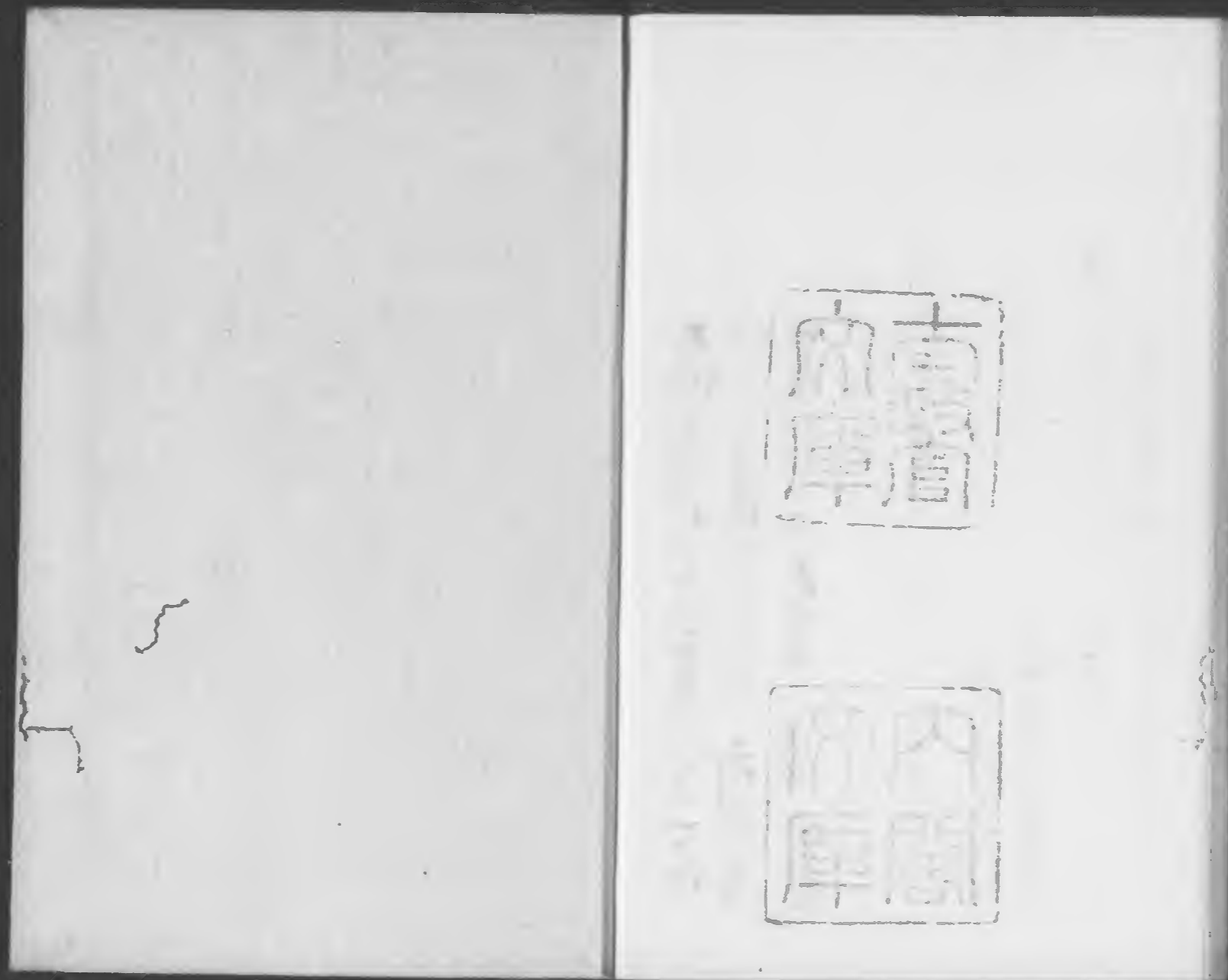
...

...

...

...

二月



庫	文	閣	内
六〇	七五		和
一	二五		書
架	冊	號	類